

令和5年(2023年)3月9日

保護者のみなさま

豊能町立東ときわ台小学校
校長 張 裕 太 郎

学校評価報告書

—アンケート集計の結果と今後の取組みについて—

春寒の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、学校教育活動改善等のため、昨年12月に、児童・保護者に対して、「児童の充実した学校生活」についてのアンケートを実施しました。その後、データを集計して分析作業を行い、改善の方向性をまとめるとともに、学校協議会の各委員の方々からもご意見をいただきました。

今年度は、昨年度までの2年間ほとんど行うことができなかった授業参観や学級懇談会、PTA親睦会等が実施でき、ありのままの児童の姿、学校の様子を知ってもらう場を持つことができたと感じています。そのようなことから、これまで全体的に肯定的評価(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)が減少傾向でありましたが、多くの項目で90%以上の高い肯定的評価をいただくことができ、本校の教育活動に対して理解を得られている部分が多いと考えています。しかし、児童への質問「学校に行くのが楽しい」の肯定的意見が高い割合でない(約83%)こと、また、全体的に強い肯定の割合は決して高いとはいえないことを真摯に受け止め、今後のよりよい教育活動等のため、改善と発展をめざしてまいります。

以下に、特徴的な項目について、学校側の「自己評価」「改善の方向性」及び学校協議会委員の方々からの意見を「関係者評価」としてまとめ、お知らせいたします。また、集計結果の比較グラフと自由記述の集約も添付していますのであわせてご覧ください。

これからも、全ての児童が「今日も来てよかった」と実感できる学び・活動する喜びに満ちた学校となるよう、仲間とともに最後までやり切ることを大切にしながら、学校として組織的・継続的に改善・発展を図ってまいります。今後とも、保護者・地域の方々からご理解と参画を得ながら、関係機関との連携を進めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

互いに認め合い支え合い、人権を大切にする集団づくり	
自己評価	・「学校生活を楽しんでいる」「学校はいじめやこどもの悩みに対応している」「先生は困ったときや悩んだ時に力になってくれる」の肯定的評価が、いずれも高い評価をいただくことができた。今後も、一人ひとりを大切に、より一層丁寧に対応していく。 ・一方、児童の「学校に行くのが楽しい」の肯定的評価は高くなかった。これからも、全ての

	<p>児童が「今日も来てよかった」と実感できる学び・活動する喜びに満ちた学校となるよう、努めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶に関して、肯定的評価の割合は決して低いわけではないが、よく挨拶できる児童と、そうでない児童が明確に分かれているように見受けられる。 ・「学校は、一人ひとりの個性を大切に、意欲や自信を持たせている」「学校は、互いに認め合い支え合う集団づくりに取り組んでいる」の肯定的評価はともに高い評価をいただくことができた。これまで同様、教職員が児童のアセスメントをもとに一人ひとりの良さを大切にし、学級集団づくりに活かした結果が表れたと考える。 ・「自分には、よいところがあると思う」の肯定的評価は、増加傾向にあるものの決して高いとは言えない。学校生活の中で、失敗を恐れる、他人との比較をしてしまう、などの結果も表れていると考えられる。 ・「思いやりのある行動ができていく」の評価は、保護者・児童で少し違いが見られたが、学校生活の様々な中では、思いやりのある行動がとれている場面が多い。 ・「人の話をしっかりと聞くことができる」の項目については、肯定的評価の割合は決して低いわけではないが、「聞く」ということに関して本校の課題の一つだと考えている。児童間トラブル等でも、自分の主張はできるが、人の話を聞く力が弱いことが起因になっているケースがある。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、普段から一人ひとりの児童への理解に努め、状況を低中高の学年団を中心に教職員で共有して、日々の教育活動に活かしていく。また、児童の困り感や悩み、小さな変化などを見逃さず、学校体制として早期発見・未然防止に努めていく。 ・「人の話をしっかりと聞くことができる」の項目については前述の通りで、特に「聞く」ということに関しては、今冬、教職員研修を行い、全体で共有を図った。教員の授業等での工夫や配慮とともに、「人の話をしっかりと聞くことができる」児童の育成のために、今後の指導に活かしていく。また、子どもたちの生活アンケート内での困り感として「まわりの音や声が気になってしまう」という声も多く、今後も、学習マナーを守ることで相手を尊重することの大切さの指導をしていく。加えて、お互いが心地よく学ぶために「相手を大切にする聞き方、話し方」については、授業の中ではもちろん、生活目標や啓発掲示など様々なかたちで継続的に子どもたちに投げかけていく。 ・今年度は児童会を中心とした挨拶運動を実施するなど、挨拶に関しての啓発活動を行えた。そうしたことにより、互いに声をかけやすい環境を作り、今後も自分から挨拶しようと思える児童を増やしていきたい。 ・今年度はスローガンをモチーフにした子どもたちの姿がいっぱいの大型掲示物をはじめ、「ハートフルマナー」「元気の出る魔法の言葉」「友達のいい所を紹介します」「私の考える平和」等、様々な機会を通して、自己有用感を味わえる機会が少しでも多く持つことがで

	<p>きるよう、また、児童が成果を感じられるよう、取組みを行えた。それらを児童玄関や廊下に掲示し、いつでも触れられる機会を年間通じて行えた。今後も、このような取組みを大切にしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団づくりのポイントや仕掛けについての校内研修を行えた。これからも、共通理解のもと、児童一人ひとりが安心できる集団づくりをめざす。 ・学校の取組みの中での、肯定的な言葉かけや適切な評価が、児童の自己肯定感を高める。また、最後までやり遂げる経験をさせることで、達成感や「やる気」を育てていくと考える。引き続き、児童一人ひとりのよい点や可能性、がんばりを見つけ、積極的に評価し、学級集団に返していくことを大切にする。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・参観の際に様々な掲示を見たが、良い取組みだった。他の多くの保護者もよく見ていた。 ・学校生活を楽しむ項目について、保護者と児童に差が見られる。保護者は子どもから話を聞き回答するが、児童が書く時のものが本音で書いているのかもしれない。 ・(一方で)「学校に行くことが楽しい」について、これまで以上に高くなっている。良い傾向だと感じる。 ・全体的に明るくなってきている。 ・良い方向に向かっているように思う。一方で、アンケート結果に表れていないものについて、気をつけてもらいたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標を具体的に細かく設定するなどにより、達成感を味わえる工夫も取り入れていく。 ・学級集団づくりと連動させながら、安心して学べる学習集団を形成していく。 ・11月11日配付「令和4年度(2022年度)全国学力・学習状況調査の結果および今後の取組みについて」でもお伝えした通り、一人ひとりのがんばりを認め、適切な評価を行う等により、子どもたちの「学ぶ意欲」をはぐくむ取組みの更なる推進を図っていく。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果が向上しているのは、先生方が学習意欲の向上につながる取組みをしているからだと思う。 ・算数の分割・習熟度別学習はとても良い取組みだと感じる。 ・とよのチャレンジのような機会を増やしてもらい、保護者と子どもでフィードバックしていきたい。 ・スマホやタブレットで検索することで満足してしまい、書くことが減っている気がする。 ・宿題の量について、年々減っているように感じる。一方で、増やすと宿題をやりきれない児童の負担が大きくなるので難しいのかもしれない。 ・教えてもらうだけでは学力は定着しないので、人に教えたりするなど、アウトプットする力をつける機会を今後も学校で続けてほしい。 ・(全校児童で取り組んだ)俳句など、小学校の間に体験させてほしい。 ・小学生の間は、得意分野に偏りすぎず、広く基礎的な学力をつけていって欲しい。

確かな学力のために、基礎基本の確実な定着を図る	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業は楽しくて、よくわかる」「授業が楽しくわかりやすいと言っている」「学校は、どの子どもわかる授業づくりに取り組んでいる」の項目は、肯定的意見の割合が高かった。授業中や休み時間の積極的な発言や質問の機会も多く見られた。 ・現在4年生以上で行っている算数の分割・習熟度別学習・TTについても、高い評価をいただくことができた。複数の教員で児童の実態把握を行い、その児童の実態に応じて学習活動を展開でき、より多くの質問や発表を行うことができている。 ・「家庭学習や宿題を行っている」の項目も高いと言えるので、児童が自ら基礎・基本を身につけられるようにできていることが伺える。今後も、学習習慣の更なる定着を図っていく。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりに関しては、高い評価を得ており、教職員が日々研修に励み、授業改善に取り組んできた成果であるといえる。 ・分かる授業とは、児童が「わかった!」「できた!」という達成感を得られる授業であり、「できた喜び」を体感して、主体的に学習する習慣が身につくようにする授業であると考え。そのためにも、TT・分割・習熟度別学習や必要に応じての個別指導、具体的な資料やタブレット端末を含む機器等を効果的に取り入れ、児童の理解を助けるよう工夫する。更に、日ごろから子どもの実態をふまえた授業づくりに、継続して取り組んでいく。

日常生活を通して、健康への関心と態度を育成する	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、計画を立てていたすべての行事を実施することができた。しかし「学校行事に目標を持って取り組んでいる」という項目で、保護者からは高い評価をいただいたが、児童の肯定的評価の割合は高いとは言えない。今年度は実施できたとはいえ、これまでの行事や取組みの制限による児童への影響は、大きいと考える。 ・外遊びをしている児童は、肯定的評価からわかるようにこれまで以上に増えた。また、異学年、複数学年で遊んでいる様子がよく見られる。 ・「家でも読書をしている」項目について、児童・保護者で乖離が見られたが、児童の肯定的評価に表れている通り、日頃から本に親しむ児童が多いように感じる。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事については、コロナ禍の中ではあったが、児童の安心安全を最優先に考えながらも、出来得る限り実施できる方向で考え、実際に行うことができた。今後も、児童の経験する機会を減少させないよう、取り組んでいきたい。一方で、教職員が、これまで以上に意識して児童に目標を持たせながら主体的な行事や学校内の諸活動により一層なるよう取り組んでいく。 ・体を動かす喜びを感じられるように、朝あそび・登校班あそび・きょうだい学年あそび、など多様な活動を実情に合わせて行い、日々の休み時間のみならず、運動する機会を持てるよ

	<p>う意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の関係者評価を受けて、子どもたちに遊びの場を提供する取組みとして、4年生以上の放課後の運動場開放を始めた。回を重ねるごとに参加児童も増えており、アンケート結果でも前回より「外で遊ぶ」児童が大きく増えているので、今後も続けていきたいと考えている。 ・学校だよりでお伝えしたように、図書館教育に関する様々な取組みを通して、今後も読書活動の推進に努めていく。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本を読む児童が増えているのは、学校の取組みや指導のおかげだと感じる。 ・家で読んでいる姿をあまり見ないが、子どもの姿から国語力が上がっているように感じる。 ・学校の特色を作っていってほしい。(例えば読書など) ・運動場開放(木金、4～6年生)の取組みが結果にも表れている。 ・様々な取組みをしてもらっているが、体力をつける機会、頑張る機会(例えばマラソン大会など)を実施してほしい。 ・外で遊ばなくなってきている時代の中で、のびのび遊んでいるのはとても良い。 ・今ある資源を上手に利用できている。 ・運動場開放はよかった。参加人数も増え、定着してきた。おかげで「体を動かす機会」のアンケート結果もよくなったと思う。

地域に学び、保護者や地域との連携につとめる(学校経営に関して)	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・設備面では、昨年度に屋上の大規模防水工事が完了するなど改善された箇所もあるが、設設全体の老朽化もあり、さらなる改善要望の声は多い。 ・緊急災害時のマニュアルについては、毎年総括し、見直しおよび改訂を行っている。保護者からも、多くの肯定的評価を得ることができた。 ・保護者や地域ボランティアの登下校の見守り、地域とのつながりに関しては、毎年高く評価されている。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策による制限下ではあるが、授業参観や学級懇談会、PTA親睦会等を行うことができた。学校だよりやHPなどを通じて、地域の方々にも、子どもたちの様子を発信していきたい。 ・設備の老朽化に関して、改善されていない部分については、日々の点検・補修に努めながら、引き続き町にも改善要望を出していく。 ・今年度は、保護者向けの緊急下校訓練も全学年対象に行うことができた。課題点を整理しながら、緊急災害時マニュアルも含めて、今後も随時更新していきたい。 ・サポーターの方々による従来の授業支援や校内花壇整備に加え、今年度は学校外の地域環境整備活動にも参加することができた。今後ともご支援をいただきながら、地域とつながる

	活動の幅を広げていきたい。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で、子どもと住民をつなげる機会をより作っていきたい。 ・寒い日も暑い日も、毎朝の登校時の見守りの方々には、感謝しています。 ・コロナ禍の中、いろいろ取り組んでいただいて本当にありがとうございます。

(最後に)

今年度を振り返り、昨年度の反省、改善点を活かし、学校行事や授業参観、学級懇談等を、すべて実施することができたことは、教職員はもちろん、子どもたち、保護者の皆さまにとっても本当に良かったと感じています。ありのままの児童の姿、学校の様子を知ってもらう場や、保護者の方々どうしが意見を交わせる場を設けることの大切さを、改めて感じています。

加えて、今年度は12月に、日本を代表するハープ奏者の さんをお招きし、全校児童に向けて演奏と質疑応答をしていただき、また、4～6年生には、東京パラリンピック車いすバスケットボール さんから、車いすバスケットボールのことやご自身の障がいに対する考えや世界で戦う中での生き方などもお話しいただきました。今後も、様々な機会を通して、児童の豊かな心を育む活動を行っていきます。

R3年度学校評価報告書の関係者評価内では、ゲーム、スマホ、インターネットの低年齢化についてご指摘をいただき、今年度は、10月20日にKDDIによるスマホ・ケータイ安全教室を開催いたしました。警視庁の調べによると、子どものネット犯罪被害は増加しており、特にSNSなどのコミュニティサイトに起因するトラブルやいじめなどの被害が増えており、この他にも、ネットを長時間利用することによる生活習慣の乱れといった問題も生じているとのこと。本校においても、これまでも学校だよりや「令和4年度(2022年度)全国学力・学習状況調査の結果および今後の取組みについて」等を通じて、テレビゲームや携帯電話、スマートフォンを使用する時間などについて、家庭でのルールづくり等、お子さまとお話し合いくださるようお願いしています。児童の健やかな成長のためには、今まで以上に家庭と学校、地域が連携・協力し合って大切なお子さまを育てていくことが重要です。

児童の「学校に行くことが楽しい」の肯定的評価は決して高くはなかったこと、また、全体的に強い肯定の割合は決して高いとはいえないことを真摯に受け止め、これからも、全ての児童が「今日も来てよかった」と実感できる学び・活動する喜びに満ちた学校となるよう、教職員一同、これからも子どもたちとともに様々な教育活動に取り組んでいきたいと思います。また、来年度にアンケート結果やいただいたご意見を活かし改善・発展を図ってまいります。今後とも、ご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。